

報 告

第124回研修会・第37回総会参加記

中島 志乃

その日6時39分鳥取駅発の特急列車に乗るため、5時に起床する。こんな時間に自宅を出るのは研修会参加者の中でも私くらいだろう…と思いつつ、勤務先まで自転車をこぎ、そこからタクシーに乗り換えて駅に向かう(タクシー料金節約のためです)。列車に揺られて2時間半、神戸の会場に入る。

研修会での会員の方の事例・研究報告は、病院図書館業務に詳しくない私にも大変わかりやすくおもしろく、この取り組みは当院図書室でも真似してみようかなとメモを取りながら拝聴した。中でも、公共図書館での室内掲示の経験を病院職員用の図書室で生かしているという取り組み例には驚かされた。図書室担当者として日々依頼されたことをこなすだけで、利用者とのコミュニケーションについて深く考えていなかったからだ。「図書室」という場を利用者と図書室担当者が共有するという事の大切さを学

ぶことができた。

近畿病院図書室協議会の研修会は会場に行くまで時間がかかってしまうのが難点ではあるが、他の病院図書館担当者の方と直接お話しできるという大きなメリットがある。当院図書室は一人職場であるため、業務の中で「これでよいのかな」と思うことが多々あるが、その疑問を相談でき、また外の様子を知ることができる場があるのは本当にありがたい。

このたびの研修会に参加して知ったことは、近畿病院図書室協議会は「近畿」と会の名前にあるが、近畿に限らず広い地域から会員を受け入れておられるということである。お話を伺った方は、関東から5時間近くかけて研修会に参加されたとのこと。朝は3時起床とおっしゃっていた。私の5時起床など大したことではない。

今後も研修会があれば参加させていただき、病院図書館業務の研鑽を積みたいと思っている。